

---

## 金属プレス製品製造業

---

平成16年以降生産は増加しており、輸出が好調な自動車や建設機械、デジタル家電の生産が拡大している弱電向けを中心に受注は増加傾向で推移している。ただ、アジアを中心に世界的な需要拡大から、ステンレスをはじめ材料価格の上昇が続いており、収益を圧迫している。

ユーザーのグローバルな生産、調達の進展により、国内のプレス業者に対しては、一層の高難度、高付加価値の対応が求められており、高度の二次加工や海外での生産能力確保に向けた取組が課題となっている。

### 金属プレスの特性と業界の概要

金属プレス加工は、金型を取り付けたプレス機械を用いて金属材料に曲げ、打ち抜き、絞りなどの加工を加え、特定の形状を作り出す塑性加工方法である。

プレス加工は、短時間に同一形状の加工を大量に行なうことができることから、自動車や家電製品などの大量生産品の普及とともに発展してきた。その用途は、自動車や電気・通信機器をはじめ、各種機械器具や事務用品、家具、建築金物など多様な分野にわたるが、自動車向けが全体の7割強を占め最大のユーザー業界となっている。

プレス加工にとって金型が重要な要素となり、中小業者では取引先から支給されることが多い。ただ、中規模以上の業者では金型の調達を自ら行うことが多く、プレス業者自ら金型製造部門を持ち内製するケースや、金型専門業者に外注するケースがある。

## 大阪の地位

大阪府内の金属プレス製品製造業者は、弱電向けや各種産業機械向け、建築金物向けが多く、中部や関東地域で高い割合を占める自動車向けが少ないことが特徴である。事業所は大阪市内のほか、東大阪市、八尾市に多く立地している。

平成17(2005)年における大阪府の金属プレス製品製造業は、事業所数 837、従業者数7,299人、製造品出荷額等は 1,100億円（大阪府統計課『平成17年大阪の工業』）で、全国に占めるシェアはそれぞれ、13.0%、10.4%、9.2%である（経済産業省『平成17年工業統計表』）。

## 受注は拡大傾向

16年以降、金属プレス製品の国内生産は増加しており、海外需要の拡大を受けて輸出が好調な製品や、景気の回復にともない国内での需要が拡大している製品向けに受注は拡大基調で推移している。ただ、ユーザーの海外調達姿勢は年々強くなっており、生産ロットの小さなものを除くと、プレス加工後の組立や塗装など二次加工を含めた取引が中心で、プレス加工単独での受注は少ない。その結果、二次加工への対応能力によって、業者の受注能力に大きな格差が生じている。

受注動向を主要需要先別で見ると、電気・電子機器関連では、白物家電向けは生産が中国をはじめとするアジアへシフトしていることから、国内での受注は少なくなっている。デジタル関連のデジタルカメラや携帯電話向けでは、国内向けに新機種投入が続いており、受注は比較的堅調に推移している。ただ、デジタルカメラや携帯電話向け部品では、製品のライフサイクルが短くなっていることから、受注が今年に入って

からは大きく減少していた。6月以降は大量の受注が数か月間続く見込み、との話もあるなど、短期間のサイクルで受注が大きく変動し、受注の波が大きくなっている。しかも、次の機会に受注を確保することができるとは限らず、安定的に受注を確保することが難しくなっている。

一方、自動車関連では、国内の新車販売は低調に推移しているものの、北米向けを中心に自動車の輸出が活発であり、プレス部品の受注も高水準である。また、自動車メーカーでは、アジアを中心に世界展開のための海外生産拠点の拡充が続いており、海外拠点向けの部品調達が増加していることも需要を押し上げている。

こうしたなか、ある企業では、従来主力であった釣具や自転車向けの受注が減少する一方で、自動車のラジエター向け部品や排ガス浄化装置向け部品の受注拡大によって、全体では増収を確保している。同社の場合、国内向けは金型を含むプレス部品での受注であるが、海外拠点向けには、金型のみを受注しており、自動車メーカーの海外拠点の拡充に応じて、海外向けの金型受注が増えている。

その他の分野では、アジア向けに輸出が好調な建設機械向けで、受注が大幅に拡大しており、自動車や医療機器などで用途が広がっている電子部品向けでも受注の拡大傾向が続いている。また、マンションや工場建設の増加によって建築金物に対する受注も堅調である。

### **材料価格の高騰から収益は厳しい**

世界的な素材価格の上昇が続いており、材料となる鉄、ステンレス、アルミなどの調達価格は長期にわた

って上昇している。受注先から材料支給される場合には問題はないが、自ら調達する場合には取引先への納入価格への転嫁ができないと収益を圧迫することになる。特に主要な材料であるステンレス価格は頻繁に値上げされた結果、価格が前年比で2倍になったとの話も聞かれるなど大幅に上昇している。自動車関連向けなど比較的受注が好調な分野では材料価格上昇分の転嫁は進んでいるものの、頻繁な材料価格引き上げに製品価格が追いつかないケースが多い。また、材料コスト上昇分の転嫁に対して、加工単価の引下げによる相殺を求められることも多く、負担が重くなっている。

また、単純なプレス加工単独で済むものや生産ロットの大きなものは海外調達の対象となっている。国内で発注されるものの多くは、小ロットで、プラスチック成形との組み合わせや組立加工、塗装などの二次加工が必要なものが多く、そうした手間のかかる加工対応がコスト増の要因にもなっている。要求精度の高まりに応じるための品質保証でも、品質検査に手間が掛かるようになっている。そのため、受注が拡大傾向にあるにもかかわらず収益の回復は遅れている。

### **新規受注確保に向けた設備投資の動きも**

長期の安定的な取引の確保が難しくなる中で、受注が好調な分野でも単なる増産のための設備投資の動きはみられない。ただ、各社とも新たな受注獲得に向けた姿勢を強くしており、プレス加工のための重要な要素となる金型の製造能力向上に向け工場を一新する動きや、受注内容の変化にあわせて、設備更新の際により大型のプレス機を導入する動きがみられた。また、要求精度が高まるなかで、品質保証のために高精度の測定機器を導入するケースもあった。

## **営業や技術開発に向けた人材確保の動き**

安定的な受注が見込めないなか、設備投資と同様に単なる増員のための雇用確保の動きはみられない。ただ、各社とも新たな取引先の確保に向けた営業力や技術対応力の強化に取り組んでおり、営業や技術開発にかかわる人材確保の姿勢を強くしている。しかし、雇用情勢が回復するなかで求人を行っても応募がなかったり、不況期には可能であった大学卒業者の確保ができなくなるなど、優秀な人材の確保は難しくなっている。

## **受注確保に向けた取組は活発**

国内では、プレス加工単独での受注がほとんどないなかで、プレス加工後の後処理や他の加工、組立などを含む受注対応に注力する動きが広がっている。ロットの小さな案件を確実に受注するために、プラスチック成形、ダイキャスト、組立など多様な加工能力の確保に努めるケースのほか、カラーバリエーションが豊富な携帯電話の新機種を受注に向け、プレス後の塗装を含めて受注し、取引先に代わって複数の塗装業者への外注管理の手間を引き受けるケースがみられた。

このほか、ユーザー業界の海外も含めたグローバル調達の流れに沿うため、海外での生産能力の有無が調達先選定の重要な要素となってきた。このため、中国内に現地メーカーとの合弁による生産拠点を有するドイツのメーカーとの提携によって、直接の海外進出なしで、海外生産能力を確保し、自動車メーカーからの受注を拡大しているケースもみられた。

## **今後の見通し**

輸出が好調な自動車や建設機械向け、製品用途の裾野が広がっている電子部品向けでは引き続き好調な受

注が続くものと思われる。一方、金属材料に対する世界的なニーズの高まりから、引き続き材料コストの上昇傾向は続くものと見込まれる。

各社とも、プレス加工単独での受注は困難とみており、プラスチック成形やダイキャスト、組み立ての能力強化など、受注の間口を広げるための動きや海外生産能力を強化する動きは続くものと考えられる。

(江頭 寛昭)

### 金属プレス加工販売額の推移(全国)

(単位：百万円、%)

	合計		自動車用		電気・通信用	
		前年比		前年比		前年比
平成15年	939,538	-0.5	637,380	-0.6	94,575	-16.2
16年	986,441	5.0	690,629	8.4	88,077	-6.9
17年	1,037,435	5.2	770,145	11.5	84,017	-4.6
18年	1,071,593	3.3	777,312	0.9	102,767	22.3
平成18年1～3月	272,868	9.5	195,364	6.6	25,847	39.0
4～6月	266,817	4.9	189,899	0.1	26,122	22.0
7～9月	264,491	1.0	192,794	-2.0	25,367	24.3
10～12月	267,417	-1.6	199,255	-0.5	25,431	7.8
平成19年1～3月	266,882	-2.2	203,400	4.1	20,596	-20.3

資料：経済産業省『鉄鋼・非鉄金属・金属製品統計月報』。

(注) 従業者20人以上の金属プレス加工専業事業所。